第３期須賀川市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和７年５月

○計画期間：令和６年４月～令和 11 年３月（５年）

1　令和６年度終了時点（令和７年３月 31 日時点）の中心市街地の概況

第３期中心市街地活性化基本計画は、令和６年４月に市の独自計画として策定し、「新たな発見とチャレンジができるまち」をテーマに、官民が連携しながら、実施計画書に掲載する各施策を推進し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

これまで、中心市街地においては、東日本大震災により被災した市役所庁舎の再建をはじめ、市民交流センターtette や風流のはじめ館の開館、すかがわ観光物産館 flatto の開店、民間事業者によるシェアオフィスやサテライトオフィス、空きビルを活用したシェアブース型チャレンジショップ等が整備されてきた。

また、翠ヶ丘公園では、Park-PFI を活用したカフェや温浴施設、飲食施設がオープンした。

令和 6 年度においては、須賀川駅東西自由連絡通路の供用が開始され、駅利用者の利便性向上とともに、駅周辺のにぎわい創出につながっている。

2　令和６年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

須賀川市では、令和６年３月に令和６年４月から令和１１年３月（５カ年）まで、市の独自計画として第３期須賀川市中心市街地活性化基本計画を策定し、「新たな発見とチャレンジができるまち」をテーマに、官民が連携しながら、これら基本計画に基づき、須賀川市民交流センターtette をはじめ、風流のはじめ館、すかがわ観光物産館 flatto、翠ヶ丘公園内のカフェ・温浴施設（Park―PFI）などのまちなかの公共・民間施設等を最大限に活用しながら、公民連携によって各種事業を積極的に推進してきた。

その結果、目標指標として設定した「休日歩行者通行量」については目標値を下回ったものの、「新規出店数」、「民間事業者における対象施設利用件数」においては目標値を上回っていることから、計画は順調に進捗し、まちなかの賑わい創出や活性化が図られているものと評価している。

今後も公民連携のもと須賀川市が独自で策定した第３期基本計画に基づき、まちなかの活性化に努めていくことを望むものである。

当協議会としても、須賀川市が作成する中心市街地活性化基本計画に関する事項等を協議するとともに、各種民間まちづくり団体等と構築したプラットフォームで、須賀川市中心市街地の活性化を目的に具体的事業の遂行にあたりたいと考えている。

３　目標毎の達成状況

目標１　回遊するための手段や仕組みを作る

目標指標である休日歩行者通行量は、令和６年度は 2,694 人/日となった。

なお、調査については、令和６年９月から 10 月までの２か月間に渡り、10 箇所 11 地点にビーコンを設置し、通行者数、滞在時間等について計測を行ったものである。

また、通行者数の最大値は、須賀川市民交流センターtette の 971 人である。

		基準値	実績値					目標値
		（R5）	（R6）	（R7）	（R8）	（R9）	（R10）	（R10）
目標指標 休日歩行者通行量 【人/日】		3,247	2,694					4,000
参考指標	循環バス降者数 【人/年】	33,288	34,884					35,000
	滞在時間 （ビーコン）【時間】	－	29:32					35:00

※休日歩行者通行量は、調査期間中における休日の歩行者数の平均とした。

※循環バス降車数は、中心市街地内 15 の停留所における総降車数とした。

※滞在時間は、休日に各調査地点に訪れ、留まった時間の平均とした。

目標２　店舗の認知度や消費を喚起する仕組みを作る

目標指標である新規出店者の継続率は、平成 28 年度以降に中心市街地区域内で昼間営業を行っている新規出店者の継続率であり、令和６年度は 87.5%となっている。

なお、令和６年度における新規出店者の業種別内訳は、飲食業が６店舗、旅行業が１店舗、社会福祉業が１店舗となっている。

		基準値	実績値					目標値
		（R5）	（R6）	（R7）	（R8）	（R9）	（R10）	（R10）
目標指標 新規出店者の継続率 （H28～）【%】		86.1	87.5					87.0
参考指標	新規出店数 （5 年間合計）【人】	47 (R1-5)	51 (R2-6)					51 (R6-10)
	ＳＮＳ フォロワー数 【人】	60,000	66,832					72,000

※新規出店数は、当該年度に市の補助金等を活用して開業した者に加え、目視等により確認した。

※ＳＮＳフォロワー数は、北部、南部、中部、翠ヶ丘公園の各エリアからそれぞれ抽出した、Instagram を運用している全 25 事業者の総フォロワー数とした。

目標３　多様な主体による公共施設・空間の活用を増やす

目標指標である民間事業者による施設利用件数は、主要 6 施設を利用した民間収益事業の件数であり、令和 6 年度は 952 件であった。

最大値は、市民交流センターの 817 件で、全体の利用件数 952 件のうちの 85.8%を占めている。

		基準値	実績値					目標値
		（R5）	（R6）	（R7）	（R8）	（R9）	（R10）	（R10）
目標指標 民間事業者による施設利用件数【件】		573	952					800
参考指標	民間事業者のイベント等参加者数【人】	113,101	100,626					124,411

※主要 6 施設（市庁舎、市民交流センター、風流のはじめ館、須賀川駅（広場）、翠ケ丘公園、結の辻）

※民間事業者のイベント等参加者数は、上記の民間収益事業等の参加者総数である。

４　施策別実施状況

別紙　実施計画書のとおり。

５　今後の展開と対策

今後の展開としては、須賀川駅西側に駅前広場やロータリーの整備を行うとともに、市道 1104 号線道路の舗装を実施し、駅周辺の混雑軽減と利便性向上を図っていく。

須賀川駅並木町線においては、福島県による電線共同溝の整備完了後に、道路拡幅と歩道整備、四阿を備えたポケットパークの整備を進め、完成後には地域コミュニティの活性化やにぎわいの創出が期待される。

また、中心市街地においては、tette 来館者のまちなかへの誘導が十分にできていないことが課題となっているが、市内の飲食店やパン屋、菓子店等を紹介するまちなかグルメマップを tette 1 階に掲示するとともに、A４サイズのマップを作成し配架する取組をしており、多くの来館者がマップを手に取り、まちなかの飲食店等への誘導につながっている。

２つ目の課題である出店者のニーズにあった空き物件が確保できていないことに対しては、面積が大きい物件の間仕切り工事に対する補助や、店舗併用住宅の店舗と住宅部分を明確に区分する改修に対する補助等により、空き物件の確保に努めている。

今後は、tette からまちなか店舗等への更なる誘導に向けた仕組みづくりと、既に閉店している店舗併用住宅のオーナーに対し、貸店舗として有効活用するような働きかけを実施し、出店者のニーズにあった空き物件の確保に努め、中心市街地のにぎわい創出を推進していく。